

平成24年度 第1回 岡山県ハンセン病問題対策協議会 議事録

平成24年8月27日(月) 15:00~16:15

三光荘 3階 パブリゾン

1. 開会

(事務局・芦田)

本日は、皆さまお忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今から「平成24年度第1回岡山県ハンセン病問題対策協議会」を開催いたします。初めに岡山県保健福祉部 海老塚次長からご挨拶を申し上げます。

(挨拶・海老塚保健福祉部次長)

保健福祉部次長の海老塚でございます。どうぞよろしくお願いたします。皆さまお忙しいところ、またお暑い中、しかも本日は、強風の中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。平素からこのハンセン病問題対策につきまして、ご理解、ご協力をいただいておりますことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。ハンセン病問題対策は、ハンセン病に対する偏見や差別をなくして、正しい理解をしていただく、それからまたハンセン病に関する歴史をいつまでも風化させず、二度と繰り返さないということのために、当協議会からもご意見を賜りながら施策を推進しているところでございます。特に県といたしましては、普及啓発事業というものに力を入れているところでございます。本日は、今年度の事業実施報告、それから今後の事業の進め方についてご協議いただきたいと思っております。また今年の事業といたしまして、6月22日の「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」をはさみ、2週間、県庁1階の県民室でパネル展を開催いたしました。その際は、本日ご出席の中尾委員にもおいでいただいて、語り部講演会を実施いたしました。参加した県民の方をはじめハンセン病問題に関心を持っていただけたのではないかとと思っております。アンケートをしておりますので、集計結果などもご報告させていただき、協議の参考にさせていただければと存じます。今後とも皆さま、各種施策の推進につきまして、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いたします。

(事務局・芦田)

それでは、協議会会長の平松先生に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

2. 議題

(挨拶・平松会長)

立秋を過ぎてだいぶたち、朝夕はだいぶ涼しくなったとはいえ、全国的に非常に蒸し暑い日が続いておりますので、皆さま健康にお気を付けいただきたいと思っております。

今非常に世間を賑わせていることとして、国の視点がどちらを向いているのか考えると、我々一人ひとりの人権が大切にされているか否かということも、大きく影響しているのではないかと。日本の国民一人ひとりの人権がしっかり顕示されている、守ら

れていれば、諸外国からもそのように対応されるだろうと思うわけですが、やはり我々一人ひとりが大事にされてはじめて、国も大事にされる。他国から評価を受けるようにならなければいけない。東日本、福島などで被災をされた方々が、いろいろ辛い思いされていることを考えたとき、我々はどうしても自分のこととして捉えることができているのではないか。人権侵害、差別、またいろいろ暮らしにくいという中で、自らを困難している人の側に置いて考えていくことが大切なのではないか。そんなことを思いつつ、今、ハンセン病の元患者さんたちが、生まれてきてよかった、幸せな人生だったと思えるような、そんな解決方法を皆さんと一緒に考えていけたらいいなと思っております。本当に貴重な時間ですので、皆さまそれぞれが思ったこと、感じたことを忌憚なくお話しいただき、この会が実りあるものとなるようご協力いただけたら幸いです。それではよろしく申し上げます。

(1) 平成24年度ハンセン病問題対策事業実施状況について

(平松会長)

それでは議題に入りたいと思います。まず平成24年度ハンセン病問題対策事業実施状況について、健康推進課の取り組みについて、則安委員から説明をお願いします。

(則安委員)

<平成24年度ハンセン病問題対策事業実施状況について、資料に基づき説明：略>

(平松会長)

ありがとうございました。それでは続きまして、教育庁の取り組みについて、谷名委員から説明をお願いします。

(谷名委員)

<平成24年度ハンセン病問題対策事業実施状況について、資料に基づき説明：略>

(平松会長)

ありがとうございました。それでは人権施策推進課の取り組みについて、寺元委員から説明をお願いします。

(寺元委員)

<平成24年度ハンセン病問題対策事業実施状況について、資料に基づき説明：略>

(平松会長)

ありがとうございました。それでは引き続き、保健福祉課の取り組みについて、板野委員から説明をお願いします。

(板野委員)

<平成24年度ハンセン病問題対策事業実施状況について、資料に基づき説明：略>

(平松会長)

ありがとうございました。各委員からご報告をいただきましたが、何かご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

(則武委員)

先ほどご報告のあった、正しい情報提供に関する措置の中で、6月18日のパネル展で中尾委員が語り部講演をされたという話がありました。資料3は内部資料ということですが、参加の内訳を拝見すると35名の参加者で、回答があったアンケートが一般

県民5名、県職員25名となっています。6月18日の月曜日10時から開催という企画ですね。平日の10時からですから、なかなか一般県民の方が参加しづらい日時設定ではないか。したがって、アンケートの中身を見ると中尾委員がすばらしい話をされて感銘を与えている訳ですが、折角の機会ですので、県職員の方が聞かれるのは、それはそれで意味のあることですが、もうちょっと日時の設定とか、場所の設定とに工夫ができなかったのか。今回は6月18日～29日の期間でパネル展示、その冒頭の日の中尾委員に話をさせていただくという仕掛けだと思います。私が思ったのは、例えばその間の土日などに設定して、県民の参加しやすいスタイルで行うという工夫ができなかったのかという感想を持ちましたので、ご回答いただければと思います。

(平松会長)

今のご意見につきまして、どなたか、事務局からご答弁いただけますでしょうか。

(則安委員)

則武委員のご指摘のとおり、そういった思いを持たれた方はたくさんいらっしゃると思います。今回この講演会は、パネル展のオープニングということで設定させていただきました。正直なところ、長い時間を掛けて計画したということではなく、どう進めていくかを、限られた予算と労力の下で、知恵を絞って実施したところです。ただ、我々もハンセン病問題を是非県民の皆さまに知っていただきたいということで、マスコミ、記者クラブの方に語り部講演会について当然広報する訳ですが、その際にマスコミの方にもこのハンセン病問題について、岡山県の大きな問題として理解していただきたい、是非しっかり内容を聞いてください、ということをお願いいたしました。そうしたことで、この講演会については、どの新聞社もかなり大きな紙面をとってくださってまして、我々としましては、限られた人とお金の中で、割とうまく効果が上がったのではないかと考えております。お話の内容も後ほど説明させていただきますが、非常にすばしかったということでした。これは私自身の思いでもありますが、まじめな公務員が一生懸命やった結果がハンセン病問題という大きな過ちを生んだということで、県職員として是非この問題は知っておいて欲しい。また、県職員にとっても相当インパクトがあったと思っております。本当にこういった普及啓発は効果的に行うということがやはり何より大切でございますので、今回いただきました意見も踏まえて、我々としましても最大限、効果のある事業を今後ともしていきたいと思っております。ありがとうございます。

(平松会長)

ありがとうございました。その他、いかがでしょうか。

(則武委員)

もし来年も同じ取り組みをされるのであれば、月曜日の朝からでは、一般の仕事を抱えていらっしゃる方では参加しづらいと思いますので、もう少し参加しやすい日時の設定をお願いしたいと思います。

(平松会長)

関連して、その他ご質問等ありませんか。

則武委員がおっしゃるように、県民5名、県職員25名という、これはかなり限定的な答えになっていくと思います。広く県民ということと、この問題をまだあまり知

らない人たちというのは、もっと若い層ではないか。例えば大学生たちがハンセン病問題について、知らない人たちが増えてきている。そういうことで、史料を風化させないということも大事ですが、そうした歴史があったことも風化させてはいけなくすれば、小中学生などに中尾委員のすばらしいお話をしていただくのであれば、則武委員がおっしゃったようなことも若干工夫を必要とするのではないかと感じました。統計、アンケートを取るときは、なるべく広い範囲で取っていく、集合として偏らないというようなことも必要なのではないかと感じました。もう一つ穿った考え方をすれば、こうした啓発活動する大本である行政の人たちがまず理解をするということもあるかと思いますが、やはり広く県民全般に知っていただくということが啓発の意味、パブリックリレーションとは、そういう意味ではないかと思っておりますので、則武委員のおっしゃったことを今後の検討課題としてお願いしたいと思っております。そのほか、何かございますか。

(南委員)

啓発や教育のことが出ましたので、今の健康推進課の事業と直接関係があるわけではないですが、少し全体的な啓発とか教育について、ハンセン病問題を学習する意義とか教育や啓発のあり方について、私が最近思っていることを少し申し述べさせていただきます。というのは、今の報告の中にもありましたが、ハンセン病問題をはじめとして、人権問題というのは人権侵害の具体的な事実をしっかりと知る、見る、聞く、そこから新しい理解が得られていくわけです。そういう意味で、先ほどの事業の例で言いますと中尾委員のお話を皆さん非常によく受け止めておられたということ、それは非常に大事なことであり、風化をさせてはならないということからも、こういう事業を日時、場所をさらに広めていくことも大事なことです。もう一つ、最近の人権侵害の注目すべきものをいろいろ集めてみますと、例えば今日も大津のいじめの問題が新聞やテレビに出ておりましたし、あるいは東日本大震災と福島原発事故に伴う様々な人権問題、それから中山間地域やあるいは高度経済成長期にできた住宅団地における孤独死の問題とか、あるいは自殺問題などあります。そういうものをずっと考えてみますと、なにか共通した背景というか、要因というようなものを感じざるを得ない。一つは社会の中から排除をしていく、そして排除された人が孤立をしていく。そして一方では、そういう人権侵害の事実がありながら無関心であったり、あるいは傍観者を装ったりというような、そういう共通した問題点を思わざるを得ないです。特に最近、毎日のように報道されるいじめの問題を通じてよく考えている。同時に、よく考えてみると、ハンセン病問題はまさに、排除され、強制隔離をされて孤立をし、今日まで尾を引いている問題だと。つまり無癩県運動とか、あるいは回復者の方々の生の声を聞くということを通じて、今日、日本の社会が抱えている人権問題の共通する課題というものが、ハンセン病問題を通じて見えてくるところがあるわけです。そういう意味でハンセン病問題についての教育、啓発の意義というのは、私は非常に大きいと思うので、ただ風化をさせてはいかんとということだけでなく、今日の人権課題に迫る重要な問題であるという認識で教育、啓発にそれぞれの担当部署が臨んでいくということが大事ではないかと私は最近特に感じているんです。少し感想を申し上げました。

(平松会長)

ありがとうございました。そのほか、ご意見等ありますか。

では続きまして「その他」の項目ですが、パネル展のアンケート結果について事務局から説明をお願いします。

(事務局・芦田)

パネル展のアンケート結果についてご説明を申し上げます。このアンケート結果につきましても、アンケートを取った時点で、公表の可否について確認を取っておりませんので、資料につきましても委員限りとさせていただきます。

まずパネル展ということで6月18日から29日に県庁県民室、1階のホールで実施しております。このパネル展につきましても、今年度新たな取り組みということで、健康推進課としては工夫を凝らして実施するという進めをしました。先ほど則武委員もおっしゃられたように、スタートとして何ができるのか、限られた空間の中で何ができるのかということで、まず語り部講演会をやってみようということでした。ターゲットとしては、県職員の研修も含めて一般県民の方にどういう形で来ていただくかということで考えましたが、学校などの団体には、交流事業などの県補助により、講演会や長島への訪問をしていただいている。では、それ以外で、団体に属さず、興味や関心を持っていらっしゃる方にいかにアプローチができるかというところを考えて、まず今年度は県民室でやってみようかということで、限られたスペースの中で実施したところです。参加者約35名ですが、報道機関の方は含まれておりません。各社、テレビ、記者さん含め、熱心に聞いていただき、50名弱の方に耳を傾けていただいた状況です。回答は30名の方にいただき、一般県民の方はこの回答の中では5名ということですが、約10名、来ていただきました。これは前日の新聞に取り上げられ、切り抜きを持って来ていただいた方もいらっしゃいます。

<アンケート結果、資料3に基づき説明：略>

アンケート結果、意見などを踏まえ、今回は準備の期間もぎりぎりという中で頑張ったつもりではおりますが、今後さらに工夫を凝らしてやっていきたいと考えているところですので、よろしく願いいたします。

(平松会長)

ありがとうございました。今ご説明いただきましたアンケート結果等について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。いかがでしょうか。

アンケートは、記述の中にいろいろな思いというものがしっかり書かれてあるなど感じています。そのことを今後の参考にさせていただいて、よりこの趣旨が伝わるような企画をしていただけたら非常にありがたいと思います。参加した方の生の声というのは非常に貴重なものであると感じています。ありがとうございました。

それでは、続きまして学習用小冊子の改訂について、事務局からご説明をお願いします。

(事務局・芦田)

<学習用小冊子の改訂について、資料2及び小冊子に基づき説明：略>

(屋委員)

裏表紙の全国ハンセン病療養所の数字について。入所者の数は現在13の国立ハンセン

ン病療養所で2100人を切っております。菊池恵楓園も360人ほどになりまして。私立の待労院診療所も8名とありますが、これは1名か2名となっております。菊池恵楓園に移っておりますので。改訂される時に問い合わせてもらえれば、国立13園の療養所の現在の入所者数は分かりますので、いつでも聞いていただきたいと思います。

(平松会長)

ありがとうございました。そのようにご訂正願いたいと思います。その他ご意見、ご質問がありますか。

(南会長)

一つ、私が割とこの小冊子を使っていて、研修会の折りに使うことも多いのですが、一箇所、これはこういうふうにした方がいいなと思っているところがあるのですが、それは3ページでして、「自由と尊厳の回復を求めて」という年表自体が近代のハンセン病の歴史そのものにはなっておるわけで、この3ページの一番下の「近代の日本のハンセン病の歴史は？」とこうなっているのを「無癩県運動」として、中身はほぼこれでいいのですが、どうしても無癩県運動について出てこなかったら、ハンセン病問題の本質が説明できない。また、この中身は無癩県運動になっているのですが、先ほど全体でもお話をした、地域から排除されて、それがずっと尾を引いていて、なぜ今、療養所にまだ回復者の方が多くおられるのかということの伏線にもなるわけです。そうした方が、使う方としては非常にいいなと常々思っていたので、私の反省でもあるのですが。

(平松会長)

ありがとうございました。原案ができたときにそれぞれにご確認いただいたら、よりよいものができるのではないかと思いますので、お手数かと思いますが、いいものを作るためには、今おっしゃってくださったような意見を踏まえながらお作りいただけたらと思います。

(事務局・芦田)

ありがとうございます。25年3月、今年度2回目のこの会議にかけさせていただいてご意見をさらにいただくということで考えております。よろしく願いいたします。

(則武委員)

1ページ目に愛生園は歴史館が出ておりますね。2009年8月に第5版は発行されたということで、それ以降だと思っておりますが、光明園も資料館ができました。光明園の資料館の写真も載せていただいた方がバランスがよいのでは。

(畑野委員)

ありがとうございます。非常にコンパクトに説明されているので、本当に手を入れるのが難しいのですが、皆さんがどう判断されるかはともかくとして、1ページの「ハンセン病とは…」に関して、もし書き替えをすればした場合には、その原案みたいなものはどなたに出せばよろしいでしょうか。もし、案を出してみたとして、それを並列してもらって皆さんが選ぶというのがいいのではないかと。もし、そういう案を出すとしたら県に送らせてもらえばいいかと。

(事務局・芦田)

健康推進課に提出いただいて、集約しますので、よろしくお願いいたします。

(平松会長)

よろしいでしょうか。その他にございますか。

(藤田委員)

些細なことですが、小冊子は1年か2年に一度増刷していますね。その時にせめて最後のページの数字だけでも入れ替えてくれればと思うのですが。09年から一度も増やしてないですか。

(事務局・蜂谷)

2009年8月31日以降では、その同じ年度に市民フォーラムのために増刷をしたことはありますが、それ以外ではありません。

(平松会長)

よろしいでしょうか。その他ご意見はございますか。

ご意見ないようですので、第2回目でも構いませんが、極力、事前に資料をお送りいただければ、この会議でスムーズに運ぶと思います。大変だとは思いますが、ご準備の方よろしくお願いいたします。

以上が、今日の議題でありましたが、その他に何かございせんか。意見交換等折角ですからして参りたいと思います。いかがでしょうか。ご意見があればお聞かせください。

(畑野委員)

今日、資料で簡単なパンフレットをお配りしています。第3回の人権啓発展示会、光明園の岡山事務所を使用しての啓発展示会を9月18日から28日まで、土日も開館して行く予定です。時間は書いてあるとおりです。どうぞ可能でしたら是非おいでいただきたいと思いますが、少し宣伝をさせていただきたいということでよろしくお願いいたします。今回で、3回目になりますので、「悲願、邑久長島大橋開通へ」ということで、光明園が島に参りましてから、開通までの歴史を簡単に振り返りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(平松会長)

ありがとうございました。どうぞ口コミで皆さんお伝えいただけたらありがたいなと思います。その他何かありますか。

(藤田園長)

愛生園から同様のご案内ですが、今年の10月27日、土曜日に「ハンセン病問題のこれからを考える国際シンポジウム」という大きな会議を企画しております。まだ主催とか後援などがはっきり固まっていないので、皆さまに印刷物をお渡しできません。実はこの直前に笹川記念保健協力財団の招きで世界各国のハンセン病の歴史保存に関する会議をすることになっていて、東京の国立ハンセン病資料館において行われます。今日はその学芸員を統括なさっている黒尾さんがオブザーバーおいでになっているのですが、黒尾さんが中心になって会議を準備しています。それで、折角いろんな国の人に来て、ハンセン病の歴史についていろいろディスカッションするという、またとないチャンスなので岡山でもその内容を聞かせてもらえればということで、愛生園歴史館の田村学芸員が中心になってこの企画を考えてお

ります。10月27日土曜日の午前10時という変則的な時間ですが、アークホテル3階で行われます。また、皆さんにはご案内を差し上げることになると思います。歴史保存というちょっと一般の方には受けないかとは思いますが、むしろここにいらっしゃる方だとか、歴史関係の方なんかに聞いていただくのにふさわしい演題かと思えます。瀬戸内弁護団のメンバーで、ゆいの会の会長でもある近藤先生にも協力をお願いしています。パネリストとしては、ブラジル、マレーシア、中国、韓国などの代表の方を考えております。私自身もそういう国でハンセン病の歴史を保存するというを考えているとは全然思っていなかった。どちらかというと上から目線で、日本が一番お金もあるし、進んでいるからそういうことを考えていて、発展途上国では、過去を振り返るような、そこまでの余裕はないんじゃないかと思っていたんですが、そんなこと決してない。改めて世界の状況を冷静に知る必要があるのではないかと思います。また、皆さまのご協力をお願いしたいと思います。

(平松会長)

ありがとうございました。情報提供をいただきました。新たに学ぶ機会にもなりますので、積極的にご参加いただきたいと思います。その他何かありますか。

(屋委員)

光明園の将来構想の一環として、7月6日に厚生労働省国立ハンセン病療養所管理室、室長に対しまして、介護老人福祉施設、特別養護老人ホームの設置、誘致ということで園長、瀬戸内市長、それから当園の事務部長、施設管理班長、全療協本部の神会長、私とで伺いました。特別養護老人ホーム50床の誘致ということですが、厚生労働省は本当に、私が思うより乗り気になっていただきました。国立療養所13園で初めてのことでということをお願いしましたところ、前向きに検討するというところで、園内で調整しなければならないところもありますが、すでに24、25、26年と段階で、国が予算を付けるというようなところまで、25年度についてはすでにある予算を付けるから、やるやらないはそちらの勝手だというようなことまで言ってきております。できるだけ、こちらは県の協議会でございますが、すすめる会・岡山に県担当者も瀬戸内市長も会長として参加しておりますので、ご協力いただけるものと思っています。よろしくお願ひします。

(平松会長)

ありがとうございました。高齢化の問題ですので、そのところはしっかり安心して高齢期を過ごせるよう、ご尽力いただけたらと思います。ありがとうございました。その他にありますか。いかがでしょうか。

それでは以上で議事を終了させていただきます。今後の日程について事務局から説明をお願いします。

(事務局・芦田)

今後の日程につきましては、今年度末を考えています。時期が近づきましたら調整をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

3. 閉会

(平松会長)

ありがとうございました。それでは以上をもちまして平成24年度第1回岡山県ハンセン病問題対策協議会の議事を終了します。委員の皆さま、御協力ありがとうございました。

(事務局・芦田)

ありがとうございました。議事進行、平松会長どうもありがとうございました。それでは最後に健康推進課長の則安からご挨拶申し上げます。

(則安課長)

委員の皆さま方には、本当に毎回この協議会におきまして前向きで、堅実な意見を賜っております。ありがとうございます。また今日は学習用小冊子の改訂ということも申し上げましたが、我々もこういったものをいつも潤沢な予算の中で、短期間でどんどん見直しというようなことはなかなか難しい状況にあります。そんな中で、今回は小冊子を見直していこうということですので、よりよいものにしていくためにこの会議のみならず、皆様方には是非意見を、評価をしっかりといただき、また今後使っていくのに本当にふさわしいものにしたいと思っております。また、県民室で行いました語り部講演会につきましても、多くの方に聞いていただき、そしてこの問題の本質を理解していただく、二度とこういうことが起こらないようにというように、行政はもちろんでございますが、県民にも理解していただき、そしてみんなで取り組んでいく必要があるかと思っております。そうしたことで我々としても事務局の限界はございますが、精一杯努力させていただきますとともに、皆様方におかれましても今後ともしっかりとご支援をお願いいたしまして、本日会議の終わりにあたっての挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

(事務局・芦田)

以上をもちまして、平成24年度第1回岡山県ハンセン病問題対策協議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。お気を付けてお帰りください。

以上